

第113期株主通信

2021年4月1日～2022年3月31日

株式会社ミツウロコグループホールディングス

〒104-0031

東京都中央区京橋三丁目1番1号

TEL:03-3275-6300(代表) FAX:03-3275-6350

mail:ir-sec8131@mitsuuroko.co.jp

●本書では、視認性、判読性に優れた
ユニバーサルデザインフォントを使用しています。

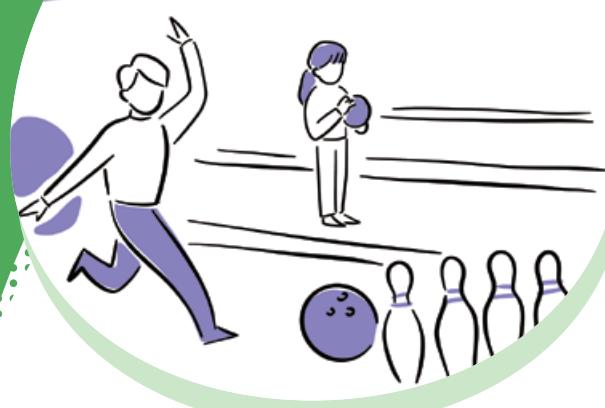


ちびまる子ちゃん 「ちびまる子ちゃん」(フジテレビ系列)で
©らくらプロダクション/日本アニメーション ミツウロコ企業広告CMオンエア中!



感動を、次々と。

Every Day, Special!



ミツウロコグループの事業領域

エネルギー事業

LPガスを中心に、石油製品、住宅設備機器、通信サービス“ミツウロコ光”、太陽光発電システムなどのインフラ事業を展開しています。

電力事業

風力発電やバイオマス発電などの再生可能エネルギーの発電事業者として、地球環境改善・エネルギー自給率の向上・地域との共生を目指しています。

フーズ事業

清涼飲料水の製造・販売、施設内販売およびカフェテリア、バーガーレストランチェーン、ボランタリーチェーンストア、スクラッチペーカリー・カフェの運営等を手掛けています。

リビング&ウェルネス事業

オフィスビル、商業施設などの開発・賃貸や、リビング&ウェルネスをテーマとした商業施設の運営を行っています。

海外事業

日本国外における事業投資や支援業務およびレンタル収納事業を行っています。

その他事業

事務用機器や情報通信機器などのリース事業、業務サポート事業、保険代理事業などを行っています。

DATAで見るミツウロコグループ

売上高	従業員数	再生可能エネルギー発電量/年間
2,500億円 第113期連結 2021年4月1日~2022年3月31日	1,771名 2022年3月31日	2億5千万kWh
経常利益	エネルギー事業店舗数	LPガス供給軒数
29億円 第113期連結 2021年4月1日~2022年3月31日	66店舗 2022年3月31日	約80万軒 2022年3月31日
設立	フーズ事業店舗数	
1926年(創業1886年)	205店舗 2022年3月31日	

国内外の多様な環境変化に即応しつつ、サステナブルな社会の実現に向けて、グループ全体でESGの取り組みを推進し、安全・安心なサービスの拡充に努め、お客様に新たな価値を提供してまいります。



代表取締役社長 グループCEO
田島 晃平

当連結会計年度における我が国の経済情勢は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、経済活動の停滞や個人消費の低迷等の厳しい状況で推移しました。足下では、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進んだことなどから新規感染者も大幅に減少し、経済・社会活動は緩やかながら回復の兆しがあったものの、感染力の強い新たな変異株(オミクロン株)の流入等により、回復は鈍化し、依然として不透明な状況が続いております。

当社グループを取り巻く経営環境においては、電力・ガス自由化以降、脱炭素化、分散化、デジタル化という流れの中で、電力・ガス・熱供給分野の一体的な改革が進み、エネルギー市場の垣根を越えた総合エネルギー市場が創出され、AI・IoT等の革新的な技術の導入や事業者間の活発な競争、異なるサービスの融合などのイノベーションの創発を通じ、エネルギー選択の自由度拡大や料金の最大限の抑制等、消費者の利便性の向上が進展しております。

一方で、世界規模でのCO₂削減取り組み強化・脱炭素化の要請や2050年のカーボンニュートラル実現に向けた宣言、自然災害の頻発化・激甚化に伴うエネルギー安定供給の

ためのインフラ強靱化の要請の高まりに加え、ウクライナ情勢の変化などによる資源価格の高騰、国際的な需給構造の変化、少子高齢化や人口減少による需要変化、そして新型コロナウイルス感染症に伴う生活様式の変化等、エネルギー事業を取り巻く構造的環境は大きくかつ急激に変化しており、国内外の多様な環境変化に即応した対応が求められております。

これらの変化の下、エネルギー事業者は環境適合、安定供給、経済効率の観点から、サステナブルな社会に向けた低炭素化・脱炭素化、安全・安心な社会に向けたレジリエンス強化、安定供給継続・事業継続に向けた経営基盤の強化等の更なる高度化を進めることが必要と考えられております。

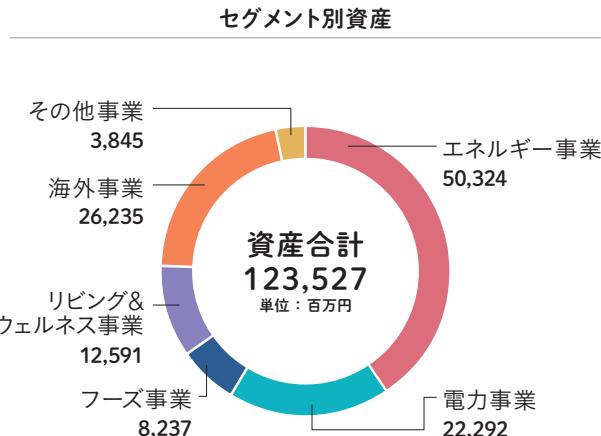
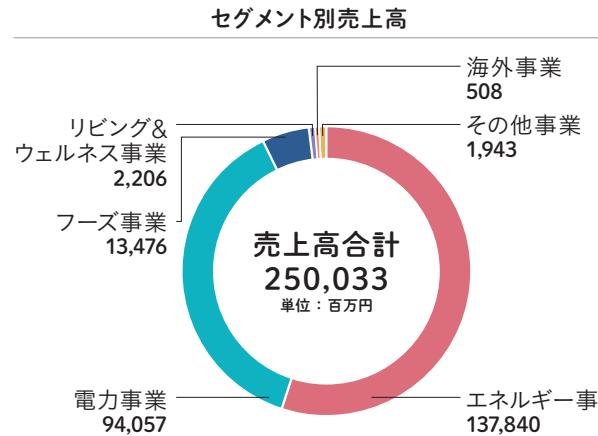
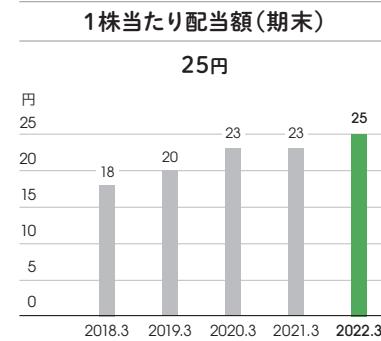
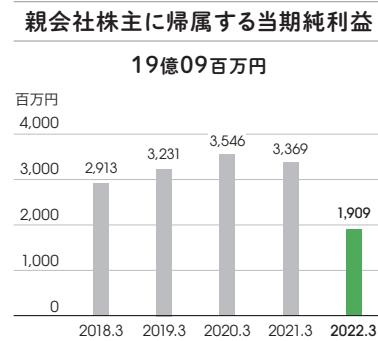
このような状況下、当社はアジアにおけるセルフストレージ事業に参入すべく、当社の連結子会社であるTRIFORCE INVESTMENTS PTE. LTD. が Singapore Post Limitedの子会社であるSingPost Investments Pte. Ltd.との間で同社の保有するGeneral Storage Company Pte. Ltd. (以下「GSC社」)の全発行済株式を譲り受ける契約を、2021年9月に締結し、12月に株式を100%取得(子会社化)いたしました。当社グループは、GSC社を傘下におくことで、独自の付加価値をもつセルフストレージや倉庫保管等をアジア太平洋地域の地域社会や企業に提供し、アジアでのマーケットシェアの拡大を図ってまいります。国内においては、当社連結子会社である株式会社ミツウロコビバレッジを通じて、2021年11月に静岡ジェイエイフーズ株式会社(2022年4月1日付で「静岡ミツウロコフーズ株式会社」

に商号変更)の株式を100%取得(子会社化)いたしました。本件により清涼飲料水の生産能力を獲得することで、約3,000億円規模と言われているミネラルウォーター市場から約3.8兆円を誇る清涼飲料市場へ参入し、あらたな事業分野において一層の事業規模拡大を図ってまいります。

また、ミツウロコグループ全体の顧客体験価値(カスタマーエクスペリエンス、CX)を向上させるデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進を目的に、2021年12月、当社の孫会社である株式会社トライフォースを持株会社である当社直下の子会社とし、より機動的な組織経営を行うことといたしました。グループ横断的視点でのマーケティングを推進し、ミツウロコグループが提供しているエネルギー、電力、フーズ、リビング&ウェルネスなど様々な分野のサービスや有形無形資産をデジタルによりエコシステム(経済圏)化することで、グループとしての総合的な競争力を高めていきます。

当連結会計年度は、エネルギー事業における燃料価格の上昇及び電力事業における電力仕入調達価格の上昇等により、売上高は前期比10.4%増の2,500億33百万円、営業利益は前期比84.3%減の8億23百万円、経常利益は前期比51.3%減の29億25百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比43.3%減の19億9百万円となりました。

株主の皆様におかれましては、当社グループの経営活動をご理解いただき、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



TOPICS

スタンダード市場で着実な成果を目指す

当社は、東京証券取引所の新市場区分である「スタンダード市場」へ移行しました。

当初は「プライム市場」に申請することを決議しましたが、経営環境の変化のスピード、市場の動向ならびに当社の状況を踏まえ再度検討した結果、限られた経営資源を既存の主力事業に加え、「環境領域」、「カーボンニュートラルの実現」および「グローバル対応領域」等における新たな価値を創造する事業への投資や事業開発、組織強化ならびに人財育成に傾斜配分することで、今後の中長期的な企業価値向上に取り組むことが、株主利益の向上をはかる上で最適な

選択と考え、最終的に「スタンダード市場」を選択しました。

今後も、株式公開企業として、コーポレートガバナンスの高度化およびサステナビリティへの取り組みを推進し、持続的な成長および企業価値の向上に努めていきます。



株主優待制度変更のお知らせ

当社は、株主様の日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力をさらに高め、より多くの株主様に当社株式を中長期的に保有いただくことを目的として、株主優待制度を実施しています。

このたび株主優待制度について、株主様の利便性の向上と環境に配慮したペーパーレス化推進の一環として従来の紙の商品券からeGift(電子ギフト)への移行を行うとともに、当社株式保有数100株以上の株主様へ対象を拡大し、オンラインショップもラインナップに含めるなど、より多くの株主の皆様へ当社グループの商品やサービスを理解して

いただく機会を提供すべく、株主優待制度の内容を変更しました。



詳細は左記QRコードリンク先をご参照ください。
※「QRコード」は株式会社デンソーウェブの登録商品です。

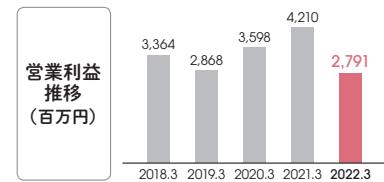
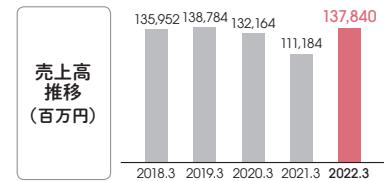
事業について



エネルギー事業

営業利益 **27億91百万円**

営業利益前期比 33.7% 減↓
売上高前期比 24.0% 増↑の1,378億40百万円



当期のポイント

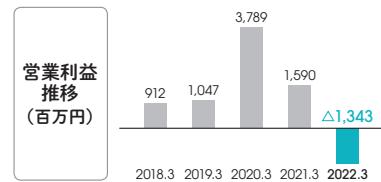
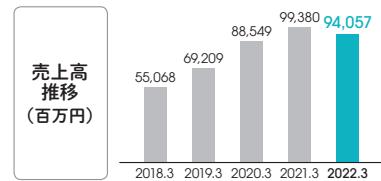
- 需要の回復傾向を背景に、業務用販売数量が増加。
- 仕入価格の上昇に伴い、営業利益が減少。



電力事業

営業損失 **13億43百万円**

(前期は15億90百万円の営業利益)
売上高前期比 5.4% 減↓の940億57百万円



当期のポイント

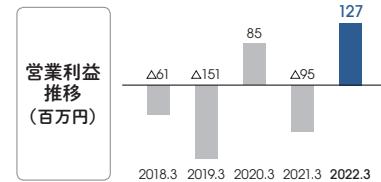
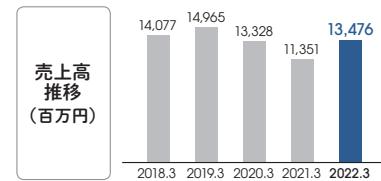
- 電力の単位使用料金が減少した一方で、契約顧客数および電力契約数は増加。
- LNG・天然ガスや石炭等の発電用燃料の輸入価格が高騰し、電力仕入調達価格も高騰した結果、営業利益は減少。



フーズ事業

営業利益 **1億27百万円**

(前期は95百万円の営業損失)
売上高前期比 18.7% 増↑の134億76百万円



当期のポイント

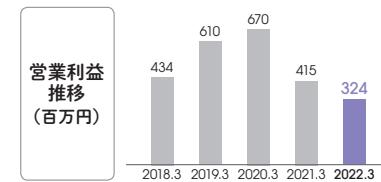
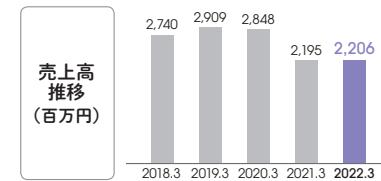
- 自社工場の常時フル稼働に加え、外部への製造委託等により飲料水販売数量は前年同期比109%と堅調に推移。
- 静岡ミツウロコフーズ株式会社(旧社名は静岡ジェイエフーズ株式会社)を当社グループに加えたことで、清涼飲料の生産拠点が5ヶ所となり、製造能力が大幅に増加。



リビング&ウェルネス事業

営業利益 **3億24百万円**

営業利益前期比 21.9% 減↓
売上高は前期比0.5% 増↑の22億6百万円



当期のポイント

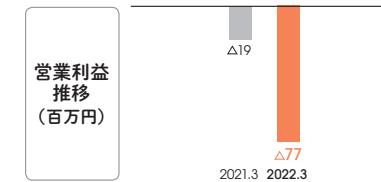
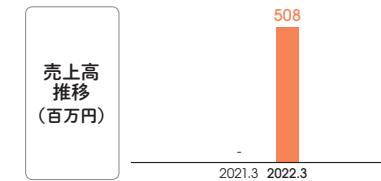
- ウェルネス事業はハマポールイアスの来館者数がまん延防止等重点措置の影響により一時的に停滞するも、現在は回復基調をみせている。
- 不動産事業は賃貸スキームの変更による費用の削減や既存物件への追加設備投資等を行い、収益力の維持向上を実現。物件の稼働率も順調に伸びている。
- 2021年10月に取得した福岡市のレジデンス「BlancCiel NISHIJIN(ブランシエル西新)」は順調に稼働率を伸ばし、2022年3月末現在ほぼ満室稼働をしている。



海外事業

営業損失 **77百万円**

(前期は19百万円の営業損失)



当期のポイント

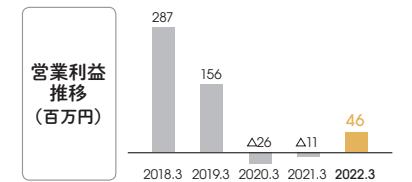
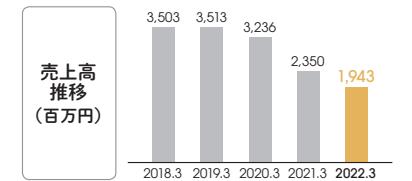
- 当期より、海外事業について個別開示を開始。
- General Storage Company社の買収に伴い、売上高は5億8百万円。
- 当該買収に係るのれんの償却額42百万円に加え、デューデリジェンス等の一過性の費用1億7百万円が発生したことから、営業損失は77百万円となった。



その他事業

営業利益 **46百万円**

(前期は11百万円の営業損失)
売上高前期比 17.3% 減↓の19億43百万円



当期のポイント

- リース事業の債権の健全化による引当金の減少により営業利益は増加。



持続可能な社会の
実現のために

ミツウロコグループの サステナブル経営

ミツウロコグループは、経営理念に掲げている通り、お客さま起点に立ち、「豊かなくらしのにないて」として、エネルギーを軸とした当社の事業を通じて持続可能な社会の実現に向け、私たちの役割を果たしながら、明るい未来と美しい地球、豊かな社会発展に貢献していきたいと考えています。

Vision(ビジョン)

挑戦しつづける創業の精神

忍而和齊家上策 勤与儉創業良図

忍ンデ和スレバ家ヲ齊ヘルノ上策
ナリ勤ト儉与ニ創業ノ良図ナリ

経営理念

わたしたちは
豊かなくらしのにないてとして
常に正道に立ち お客さま起点で
社業を運営します

コーポレートメッセージ

感動を、次々と。
Every Day, Special!

Materiality(重要課題)

1

環境への貢献

ミツウロコグループは、この地球から事業活動に必要な資源等、様々な恩恵を受けており、地球環境をよりよい状態に保全していくことが自らの責務であることを自覚しています。ミツウロコグループの存在意義は、日々の企業活動を通じ、社会そのものを良くしていくことであり、社会課題を解決するための積極的な取り組みを最重要視しています。世界共通の課題である気候変動対策として、ミツウロコグループの事業活動およびお客様の製品・サービス利用時のCO₂排出量の削減とエネルギー効率向上へ貢献し、2050年度のカーボンニュートラルを目指します。

2

地域社会への貢献

ミツウロコグループは、事業を営む上で、これまで多くのステークホルダーに支えられてきました。その中でも地域社会の皆様への存在は欠かすことができないものです。ミツウロコグループはこれまで、ビジネスを通じた関係だけでなく、地域の清掃活動や行事への参加、チャリティ活動、スポーツなどの様々な関わりを通じ、伝統的に地域との信頼関係を築いてきました。ミツウロコグループは、この地域社会における企業市民として、たとえ小さなことでも自分たちができ、すべきことに全力で取り組み、地域社会と共存・共栄をしていきたいと考えています。

3

コンプライアンスの徹底

ミツウロコグループは、常に正道に立ちお客さま起点で社業を運営することを経営理念に掲げ、経営・事業活動における法令遵守の必要性を唱えてきました。これまでも有効かつ適正な内部統制を徹底しつつ、各種コンプライアンス研修の実施、不正事例に関するオリジナルの研修映像作成やコンプライアンスカードの常備携帯などを通じ、継続的に法令遵守体制の維持を図っています。これからも、常に企業の社会的責任の観点に立ち、高い倫理性に基づいた誠実な経営活動・事業活動を行ってまいります。

4

安全および災害対策の強化

安全は、ミツウロコグループの推進する事業全ての特性から、欠かすことのできないものです。特に主力であるエネルギー関連製品は、ライフラインとして私たちの生活に直結しており、エネルギーの安定供給、安全・安心・迅速な物流サービスを通じて社会に貢献することがミツウロコグループの使命です。今後も、東日本大震災の経験・教訓や、近年多発している台風・水害・猛暑等による大規模自然災害の影響を踏まえ、防災の必要性・重要性を認識し、防災対策や支援体制、BCP等の災害対策の強化に努めていきます。

5

健康経営

ミツウロコグループでは、人材こそ最大の資産であるという考えに従い、将来の成長力の源泉である従業員の健康管理を重要な経営課題として捉えています。「ミツウロコグループヘルスケア宣言」のもと、一人ひとりが多様なライフステージに向かっていくことを尊重し、様々な取り組みや情報発信を通じて、従業員の自律的・積極的な健康増進をサポートしてきました。今後も、更なる疾病予防のための心身の健康づくり、新型コロナウイルス感染症への対応を含めた新しい生活様式に沿った働き方等、健康経営のリーディングカンパニーとして一層充実した健康への取り組みやサポートを推進していきます。

6

ダイバーシティの推進

ミツウロコグループは、時代が求めるものを生業とする「環境適応業」として成長し、時代とともに変化することを理念としてきました。今後は環境に後追いで対応するのではなく、私たち自身で新しい環境やより良い環境を提案し創ることが持続的な成長の実現に必要なことと考えています。そのためには、ミツウロコグループにおいても、新卒・中途採用、雇用形態、国籍、性別、年齢等に捉われない組織と、その多様性を受け入れ強みとして活かす企業文化の醸成が不可欠です。ミツウロコグループ自体が「好循環を創造する企業」となり、「私たちが変化し続ける」ことで、新しい時代を創っていく存在になりたいと考えています。

Business segment(事業セグメント)



エネルギー事業

LPガス
都市ガス
石油製品
燃料電池



電力事業

風力発電
メガソーラー
バイオマス発電
ミツウロコでんき(小売り)



フーズ事業

レストラン
ベーカリー・カフェ
ボランティアチェーンストア
ミネラルウォーター



リビング&ウェルネス事業

複合商業施設
オフィスビル
マンション



その他事業

リース、
保険代理、
業務サポート、海外

Action Plan(事業の取り組み)

脱炭素 MV成長戦略

- 1 LPG配送でCO₂を低減
- 2 高効率給湯器の販売促進
- 3 営業車のEV化推進

グリーンエネルギーの 取り組み

- 1 CO₂排出量の削減に取り組むお客様へ向けたミツウロコグリーンプランの提供
- 2 EVと再生可能エネルギーを組み合わせたEVグリーンプランの提供
- 3 再生可能エネルギー電源の開発

フーズ部門の 取り組み

- 1 ミネラルウォーターのラベルレスによる資源の有効活用
- 2 食の安全および食品ロスの削減

ウェルネス部門の 取り組み

- 1 SPA EAS・ハマボールでの新型コロナウイルス感染対策
- 2 水リスクへの対応
SPA EASでの水使用量低減

その他の 取り組み

- 1 SmartOWL®による配送効率化
- 2 苜栽培事業

ESG value(ESGにおける創造価値)

E 環境

私たちミツウロコグループは、低炭素社会の実現のために様々な事業展開をしています。主力であるエネルギー事業、次の柱となり得る電力事業を拡大していくことで、結果、低炭素社会の実現へ貢献していくこと。それが、私たちが企業市民として果たせる役割であると考えています。これからもミツウロコグループは、次代を担う子どもたちのため、地球のため、資源と環境をしっかりと見つけ、お客様一人ひとりの豊かな暮らしづくりに貢献していきます。

S 社会

ミツウロコグループは創業以来、人財こそ成長の源泉、かつ最大の資産であるという考えのもと、事業を運営してきました。安定したサービスを、安心してご利用いただくために、安心安全社会の実現に向けて、地域と共生し、たとえ小さなことでも、私たちができること、するべきことに全力で取り組み、明るい未来と美しい地球、豊かな社会発展に貢献していきたいと考えています。

G ガバナンス

ミツウロコグループは、持続的な成長と全てのステークホルダーにとっての企業価値向上を目指し、最適な経営体制の構築と適正で健全な企業運営を行うことをコーポレート・ガバナンスの基本的な考え方としています。迅速な意思決定や経営の監督機能の強化、企業行動の透明性確保に向け、今後もガバナンス改革を推進し、リスク管理の強化やコンプライアンスの向上に取り組んでいきます。



サステナブルで 豊かな社会

※ 海外事業について、当連結会計年度より、報告セグメントとして事業概況を個別開示しておりますが、本特集のESGの取り組みにおける事業セグメントについては、「その他」に含めております。

会社概要

社名	株式会社ミツウロコグループホールディングス
英文社名	Mitsuuroko Group Holdings Co., Ltd.
主な事業内容	持株会社(グループの経営戦略・経営管理)
本社所在地	〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目1番1号
創立年月日	1926年(大正15年)5月10日
資本金	70億77百万円
従業員数	21名/連結:1,771名(2022年3月31日)

役員

(2022年6月17日現在)

代表取締役社長 グループCEO	田島晃平
取締役	二見 敦
取締役 グループCFO	児島和洋
取締役	坂西 学
取締役	川上 順
取締役	大森基靖
取締役 グループCTO、グループCIO、グループGCIDO	ゴ ウィミン
取締役(社外)	柳澤勝久
取締役(社外)(独立)	松井 香
監査等委員である取締役(社外)(独立)	菅原英雄
監査等委員である取締役(社外)(独立)	河野義之
監査等委員である取締役(社外)	田嶋 圭

株式の状況

(2022年3月31日現在)

発行可能株式総数	197,735,000株
発行済株式の総数	60,634,566株
株主数	4,174名

上位株主

(2022年3月31日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
ENEOSホールディングス株式会社	5,064,040	8.35
明治安田生命保険相互会社	4,990,000	8.23
田島株式会社	4,327,000	7.14
損害保険ジャパン株式会社	3,681,173	6.07
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,262,600	5.38
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託みずほ銀行口	3,024,400	4.99
リンナイ株式会社	2,682,464	4.42
橋本産業株式会社	1,926,500	3.18
全国ミツウロコ会持株会	1,710,884	2.82
株式会社パロマ	1,685,124	2.78

(注)1.当社は自己株式を1,000株(株式給付信託(BBT)に関する株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社の株式567,900株を除く)保有しています。

2.持株比率は自己株式を控除して計算しております。なお、株式給付信託(BBT)に関する株式会社日本カストディ銀行(信託E口)が所有する当社の株式は、持株比率の算定上、期末発行済株式総数から控除する自己株式からは除外しています(当連結会計年度末567,900株)。

分布状況

(2022年3月31日現在)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 剰余金の配当 毎年3月31日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目3番3号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法	電子公告により、当社ホームページ(https://www.mitsuuroko.com/)に掲載いたします。ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。

郵便物送付先・お問い合わせ先

郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
お問い合わせ先	フリーダイヤル 0120-288-324(未払配当金の受領など)

住所変更、単元未満株式の買取および買増請求等のお申し出先につきましては、株主様が口座をお持ちの証券会社にお申し出ください。ただし、株券電子化に際して、株券を証券会社の口座に入庫しなかった等の理由により、特別口座において管理されている株式の場合は、特別口座管理機関であるみずほ信託銀行が住所変更等のお申し出先となります。

	証券会社に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	お取引の証券会社等になります。	フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続お取扱店(住所変更、株主配当金受取り方法の変更等)	お取引の証券会社等になります。	みずほ信託銀行 本店および全国各支店 ※トラストラウンジではお取扱いできませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行 本店および全国各支店、みずほ銀行 本店および全国各支店	みずほ信託銀行 本店および全国各支店
ご注意	支払明細発行については、右の「証券会社等に口座をお持ちでない場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。